# 伝統

## 地蔵出し

あさぎり町には、結婚式の披露宴時に独特の踊りの出し物があります。「地蔵出し」とよばれ、お地蔵様を担いだ7～8名が行列を作り、ユーモラスな動きと共に、披露宴の座を廻るものです。

「地蔵出し」の由来は、明治から大正時代に遡ります。旧深田村・鷺巣（さぎす）地区にあった銅山で働く工夫が、結婚式の酒肴にありつくための余興として、地区に祀られているお地蔵様を担ぎ出したことに端を発します。

地区の住民も、安寧の象徴のお地蔵様を祝儀の席にお迎えすることに意義を唱える者もなく、何より賑やかで場を盛上げる踊りは歓迎されたと思われます。また、じっくりと腰を落ち着かせるお地蔵様にあやかるという願いがあったのかもしれません。

にぎやかに仮装して、お地蔵様を担いだ二行は、箕（てみ）、一升枡（いっしょうます）、行灯を持ち、蒸篭（せいろ）を背負い座を廻ります。これは、二生（一升）安堵（行灯）せろ＝しよう（蒸篭）という意味で、人生の門出に立つ二人の決意と願いが込められています。

そして披露宴が終わると、新郎新婦二人でお地蔵様を元の場所に返しに行きます。その時、頭巾と胸当てを着せ、お供え物を添えて子宝の祈願を行います。

地蔵さんを担いで登場です。

花のあるまち
水仙
（3月～4月）

あさぎり町
町勢要覧 2004

# ひとんぎ

家を建てる時上棟式（じょうとうしき）を行いますが、球磨郡ではこの棟上（むねあげ）の際、屋根の上から行う餅投げを「ひとんぎ」（地域によっては「しとんぎ」）と呼びます。神前に供える米の粉で作った餅「しとぎ」が、「ひとんぎ」になったのではないかといわれています。

餅投げ自体は全国的な行事ですが、最近では大手ハウスメーカーの進出により都会ではあまり見かけない光景となっているようです。

球磨郡ではほとんどの新築工事の際に、この餅投げが行われます。餅のほか、お菓子や生活小物、お金等を屋根の上から、お祝いに駆けつけてくれた人たちに向かって撒きます。

「お蔭様で・・」という精神が、神様にお供えしたものをみんなで分け合い、地域の人たちと一緒に祝う行為につながり「ひとんぎ」と呼ばれるようになったのではないでしょうか。

# もぐら打ち

子供が主役の行事である「もぐら打ち」は、農作物を荒らす有害動物のもぐらを、土中から追い出し豊作を願う行事として、九州の広い地域で行われていましたが、球磨郡では子ども会の年中行事として残されています。

1月13日の夜に子供たちが集まって、棒の先に藁（わら）を巻いた叩き棒を持ち、近隣の家庭を回って地面を叩きます。もぐらを追い出したお礼としてお菓子やお金を貰うといったものです。地面を叩きながら子供たちは、独特の節回しのかけ声ともとれる歌を歌います。歌の内容は地区によって異なりますが、寒い冬の夜空に子供たちの歌が響き渡ります。

免田地区

# しゅんなめじょ

五穀豊穣（ごこくほうじょう）を願って作られる「しゅんなめじょ」は、木と紙でできた人形で、小正月の伝統行事として戦前は球磨郡の広い地域で作られていました。その後一部の地域の人によって守られてはいましたが、近年、伝統行事を見直す風潮により、保育所の行事などで作られ復活の兆しが見えます。

1月14日の夜に「しゅんなめじょ」と一緒に、「あわんぼ（粟穂）」、「まゆ（柳餅）」、「めーだご」、「餅担い猿（やじろべえ）」も作られ、翌15日の朝、籾俵（もみだわら）に刺して祀られます。18日の朝、屋敷の隅に祀ってある荒神さんに納められ、一連の行事が終了します。

「まゆ」が食べられる太郎朔日（2月1日）までに、柳の枝から餅が落ちると日照り、残っていると雨が多いといわれました。

# 臼太鼓踊り

町内には多くの地区で臼太鼓踊りが保存継承されています。この踊りの由来は定かではありませんが、源平合戦を表現しているとも言われ、江戸時代に各地区の踊り手たちが藩主の前で踊りを披露したため、互いに競い合い練磨し頂点を迎えました。つまりこの時期に形成された踊りの骨格が今に受け継がれているのです。

久鹿太鼓踊り

庄屋臼太鼓踊り